

ターンテーブルの運営評価について

首都圏における本県の情報発信・交流の拠点であるターンテーブルは、機能を効果的に発揮させるため、施設の賃貸借契約は長期契約を前提としている。

現契約は、令和4年3月末に期限を迎えるが、このたび施設の設置効果を客観的に検証することとし、各専門分野における外部委員からなる評価委員会を設置し、ターンテーブルの運営評価を行った。

1 総合評価

ターンテーブルは、令和元年7月の運営体制の変更後、民間事業者ならではの徹底したサービスの見直しや戦略的な企画展開を推進することにより、施設の集客力を高めるとともに、多数のメディアへの発信を積極的に行い、多くの方に「徳島」を体感いただいた結果、県が定めた施設運営の成果指標を全て達成した。

さらに、コロナ禍においても、多角的な展開を図り、県のアンテナショップとしての機能発揮に努めるなど、「徳島の食とライフスタイルのブランディングを首都圏において行う」という施設の設置目的に照らし、十分な効果を発揮しているものと評価できる。

今後も、運営事業者ならではの民間の知見やネットワーク等を最大限に活かし、豊富な農畜水産物や観光資源を有する徳島の首都圏における発信拠点として、「徳島の魅力発信」「県産食材の販売拡大」「とくしま回帰の促進」に向けた更なる取組みが期待できる。

2 評価スケジュール

令和2年10月30日 第1回評価委員会（概要説明）

11月 5日 第2回評価委員会（現地視察・事業者ヒアリング）

12月21日 第3回評価委員会（意見書取りまとめ）

3 評価委員

（敬称略・五十音順）

区 分	氏 名	所 属	備 考
経済効果	大谷 博	(公財)徳島経済研究所・上席研究員	委員長
経 営	田中 里佳	公認会計士、税理士	
情報発信	垂見 和磨	(一社)共同通信社・地域報道部次長	
生 産 者	長江 郁哉	全国農業協同組合連合会徳島県本部・本部長	
地方創生	畠田 千鶴	(一財)地域活性化センター・広報室長	

ターンテーブルの運営状況に関する意見書

ターンテーブル運営評価委員会

ターンテーブル運営評価委員会設置要綱に基づき、首都圏における徳島県の情報発信・交流拠点である「ターンテーブル」の運営に関する評価委員会において、評価を行いました。

評価内容につきまして、ここに意見書としてとりまとめ提出いたします。

令和3年1月18日

ターンテーブル運営評価委員会

委員長 大谷 博

1 総合評価

ターンテーブルは、令和元年7月の運営体制の変更後、民間事業者ならではの徹底したサービスの見直しや戦略的な企画展開を推進することにより、施設の集客力を高めるとともに、多数のメディアへの発信を積極的に行い、多くの方に「徳島」を体感いただいた結果、県が定めた施設運営の成果指標を全て達成した。

さらに、コロナ禍においても、多角的な展開を図り、県のアンテナショップとしての機能発揮に努めるなど、「徳島の食とライフスタイルのブランディングを首都圏において行う」という施設の設置目的に照らし、十分な効果を発揮しているものと評価できる。

今後も、運営事業者ならではの民間の知見やネットワーク等を最大限に活かし、豊富な農畜水産物や観光資源を有する徳島の首都圏における発信拠点として、「徳島の魅力発信」「県産食材の販売拡大」「とくしま回帰の促進」に向けた更なる取組みが期待できる。

2 個別評価

(1) 運営方針

従来のアンテナショップとは一線を画しており、県産食材にこだわるシェフによる多彩なレシピ開発・メニュー提供等を通じて、徳島の食を発信している。

特に、運営体制の変更後、幅広い層をターゲットとし、「渋谷」という場を活用して着実にファンを増やしており、「徳島の食などの体験や交流を通じてお客様自身が徳島の魅力や価値を発見し、発信していただく」という施設コンセプトをふまえた運営が行われている。

今後、培われた施設のブランド力を糧に、「徳島」を前面に出した運営に移行し、更なる機能発揮に繋げることを期待する。

(2) 情報発信に向けた取組み

①施設運営における情報発信

- ・ 食の魅力を伝え、定着させるためには、「何度も味わっていただくこと」が重要であるが、令和元年度は目標を上回る34,360人が施設を利用し、周辺住民、近隣企業のほか、都内各所から訪れるリピーターが順調に増えているとのことであり、「徳島の食」の魅力が着実に発信されていると評価できる。
- ・ 施設においては、店内外でのポスターやメニュー表示等から、「徳島」に関連することや「県産食材」が使われていることがPRされている。
- ・ とくしまブランド推進機構との連携による首都圏飲食店合同の「阿波尾鶏フェア」をはじめ、県産食材をテーマとしたメニューフェアを頻繁に展開することで、県産食材のブランディング強化に繋がっていると考える。
- ・ ホステルでは、外国語の話せるスタッフの配置など、対話・交流を通じて「徳島」が積極的に発信されている。

② SNS やメディアによる情報発信

- ・ 雑誌や書籍、全国放送のテレビ番組など、令和元年度においては337件のメディアで取り上げられ、他自治体のアンテナショップ等と比べると比較にならないほど少ない予算の中、多くの注目を集めているところであり、「徳島」「徳島県産品」に関する情報発信が行われていることは評価できる。

- ・ 店内の備品や料理の見た目などについては、顧客による SNS 発信を意識した工夫がなされており、「社食アプリ」への登録も、特定層への情報発信により、売上げ増の環境を作り出す効果的な取り組みだと考える。
- ・ ターンテーブル公式 SNS については、いいね数やフォロワー数等から鑑み、リピーターとのコミュニケーションツールとして機能していると考ええる。
- ・ 情報発信をはじめとするターンテーブルの取り組みや成果について、県との連携により広く県内にも発信し、県民や県内事業者の活用を促すことにより、更なる効果創出に繋げるよう期待する。

(3) 県産品の販売拡大

①施設における県産品の効果的な販売促進

- ・ 県産食材の良さを引き出す様々なメニュー展開や食材の鮮度へのこだわりなど、徳島の生産者の思いを消費者に伝える工夫がなされていると感じる。
- ・ 県産食材の使用率は85%に達しており、積極的な活用が十分に認められる。食材や調理のレベルは高く、カジュアルなメニューをアレンジするなど、首都圏の若者をはじめ、幅広い客層を取り込める工夫がなされ、客数・客層を大きく増加させることにより、県産食材の販売拡大が図られている。
- ・ 物販については、強化予定とのことであり、今後の展開を期待している。

②県産品の掘り起こしや活用促進・生産者へのフィードバック

- ・ 月1回以上、頻繁に県内の生産者等を訪問し、県産品の掘り起こしを行うとともに、首都圏での評価やニーズを細かく伝えている。また、首都圏ニーズをふまえたレシピをフィードバックするなど、県内生産者の販路開拓に向けたサポートも行われている。
- ・ 今後、県内生産者、生産者団体、観光団体等との更なる交流・連携を促進するとともに、例えば、県内飲食店に向けた県産食材レシピ開発や提供など、新たな県内市場拡大や観光消費拡大に向けた取り組みを期待する。

③周辺の飲食店など、実需者への県産品販売拡大に向けた取り組み

- ・ 施設における県産食材活用に加え、周辺飲食店等への外商・外販活動により、令和元年度の県産食材仕入れ額は1億3,758万円と大きく拡大している。
- ・ 新たに徳島ゆかりの飲食店経営者ネットワークを作り出し、さらに大手飲食店情報提供サービス会社との連携により、100店舗を超える飲食店で県産食材の活用が図られるなど、BtoB の関係を確立しつつあり、今後も期待できる取り組みである。
- ・ 生産者、流通・市場関係者との連携も図られているところであり、今後、ターンテーブルを活用することでメリットとなる好循環を創出することにより、更なる販売拡大に繋げていきたい。

(4) とくしま回帰に向けた取り組み

①多くの人々が施設に集まり、交流するしかけづくり

- ・ 徳島に関連する多彩なテーマによるイベントが、令和元年度は99回開催され、前年を大きく上回る約14,000人もの多くの方が参加されていること、また、県内市町村をはじめ、学校の同窓会や県人会、県関係企業など民間団体がターンテーブルを舞台に交流イベント等を展開するなど、集客・交流のしかけづくりはできていると感じる。

- ・ 特に、徳島出身の学生に食事を提供する取組みは評価でき、コロナ禍で帰省が難しい中、ターンテーブルの持つ役割や可能性は大きいと感じる。

②観光や移住など人の流れ創出に繋げる取組み

- ・ 「阿波おどり」「徳島ヴォルティス」「徳島ゆかりの映画」などの「徳島」をテーマとしたイベントが継続的に開催され、多くの「徳島ファン」が集まっている。
- ・ 他のアンテナショップと同様、観光誘客に関する効果の把握が難しいところであるが、アンテナショップとしてリアルにこだわり、ふるさと体験などを通じて徳島の情報発信を行うことが重要である。
- ・ 徳島への誘客や徳島ファン創出に向け、県内の宿泊・観光施設との連携など、更なる取組みを期待する。

(5) その他

①地元との良好な関係維持・連携

- ・ アンテナショップが立地するコミュニティとの連携は重要であり、地元開催のイベントへの参加など、地域に根ざした活動を行っている点は評価できる。
- ・ また、地域の課題に向き合い、コロナ禍において、地元子ども達にお弁当の無償配布を行ったことや、いち早くマルシェを強化した点は評価できる。
- ・ アンテナショップとしての公的な取組みは、徳島への好印象を引き出すことに繋がり、今後も継続することを期待する。

② KPI の達成状況

- ・ 令和元年度の KPI 指標である「施設利用者数」「交流イベント参加者数」「飲食・物販部門の売上げ」「県産食材の仕入れ額」の全てで目標値を達成しており、コロナ禍がなければ、さらに高い実績を上げたとみられ、施設効果は十分発揮されていると考える。

③今後の施設運営に関するビジョン

- ・ 徳島の食の魅力を発信するために積極的に取り組み、予期せぬ新型コロナウイルス感染拡大によって、厳しい運営状況が続く中でも、弁当事業やマルシェ強化など、ウイズコロナ対応に取り組み、近隣需要を喚起している点は大きい評価できる。
- ・ また、商社機能を強め首都圏に広く県産品を流通させる活動に取り組むなど、果敢な営業努力が見られるとともに、レストランの利用者が食材をネットで継続購入ができるようシステム構築を予定するなど、時代に即した実効性のあるビジョンを持っている。
- ・ コロナ禍により宿泊部門の回復が見通せない中、会議や飲食プランの設定など多様な需要に対応し、集客確保を図るなど、「食」と連動させた効果的な情報発信について準備を進めているとのことであり、今後の新たな展開を大いに期待する。

3 ターンテーブル運営評価委員会の開催概要

(1) 第1回運営評価委員会

開催日：令和2年10月30日（金）

開催場所：徳島県庁1101会議室

東京本部会議室（テレビ会議にて参加）

内容：①ターンテーブル運営評価実施計画について

②ターンテーブルの施設概要について

③ターンテーブルの運営状況について

④意見交換

(2) 第2回運営評価委員会

開催日：令和2年11月5日（木）

開催場所：ターンテーブル（東京都渋谷区神泉町10-3）

内容：①現地視察

②運営事業者から意見聴取

(3) 第3回運営評価委員会

開催日：令和2年12月21日（月）

開催場所：徳島県庁1101会議室

東京本部会議室（テレビ会議にて参加）

内容：①ターンテーブル運営評価に関する意見書について

②意見交換

4 委員名簿

（敬称略・五十音順）

氏 名	所 属	備 考
大谷 博	（公財）徳島経済研究所・上席研究員	委員長
田中里佳	公認会計士、税理士	
垂見和磨	（一社）共同通信社・地域報道部次長	
長江郁哉	全国農業協同組合連合会徳島県本部・本部長	
畠田千鶴	（一財）地域活性化センター・広報室長	